

(県立天草高等) 学校 令和 6 年度 (2 0 2 4 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、しなやかで豊かな人間性の育成を図る。 (2) SDGsの視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。 (3) 生徒個々が生涯の中で果たすべき役割や価値を見出すキャリア教育を推進する。 (4) 体力の向上、心身の健康の保持増進、及び安全教育の充実を図る。 (5) ワークライフバランスを意識した学校における「働き方改革」を推進する。

2 本年度の重点目標
1 学習指導 (I C T を活用した主体的・対話的で深い学びの推進) 2 生徒指導・特別活動 (自主的活動を奨励し、人格育成を基盤に据えた個性豊かな人間性育成の推進) 3 進路指導 (「雛鵬プラン」を基盤に据えた、人生設計教育 (キャリア教育) の推進) 4 SSH (探究的な問いの視点と、論理的考察能力・態度を持った生徒の育成) 5 健康・安全教育 (生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成) 6 環境教育 (「身近な環境」を日常的に捉えさせ、環境保全に対する高い意識の醸成と行動力の育成) 7 開かれた学校 (地域との積極的連携推進) 8 生徒一人ひとりを中心に据えた学校づくり 9 学校における働き方改革 (業務削減の推進及びワークライフバランスの視点に立った年休の計画的取得)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校	開かれた学校づくり	公開授業等の推進	・保護者や地域の方々の本校教育活動への理解と関心の向上	・雛鵬委員会および教務部が立案し、年間2回の公開授業等を実施する。 ・公開授業週間や「教育の日」などを活用して、保護者や地域の方々、近隣校への案内を徹底する。 ・育友会総会に併せて、公開授業を行い、保護者が授業参観できる機会を設定する。	B	・年間2回の公開授業を実施できた。 ・公開授業週間における校外の方々の参加人数は、1回目21人（昨年度20人）、2回目6人（昨年度14人）であった。時期の設定や案内方法等の検討が必要である。 ・育友会総会前の公開授業を行い、保護者が授業参観する機会を設けた。
		広報活動の充実	・効果的な広報活動による入学志願者の確保	・夏季休業中に体験入学を実施し、体験授業や部活動、SSH事業、国際交流事業など学校の特色が伝わる内容を企画する。 ・WEB体験入学や学校紹介PVを用いて広報を行う。	B	・体験入学や保護者向け説明会を実施し、約400名の参加者に対して、本校のPRを行うことができた。 ・中学校での高校説明会で、天草地区の中学校18校、合計1514人の生徒に本校のPRを行うことができた。説明会等で利用している学校紹介PV及び

経 営				<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新頻度を高め、記事の内容を充実させるために、イベントごとや部活動ごとに担当者が記事を作成する。 ・探究活動で使用し不要になった生徒作成ポスターを近隣小・中学校に配付し、児童・生徒・教職員に本校の教育活動のPRを行う。 	<p>学校HPのWEB体験入学の内容については、更新に向けて取り組み始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPは、学年や担当で分担して新着情報の更新作業を行い、学校の魅力を常に発信することができた。 ・近隣小学校へのポスター配付を継続して行い、本校の探究活動のPRを今後も行っていく。
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実 ・学校行事、育友会行事への積極的な保護者の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等を1ヶ月前には計画し、詳細を周知する。また、すぐるや学校HPを活用し、保護者の参加可能な学校行事を周知し、積極的な参加を促す。 ・育友会の実施時期、日程等を次年度に向けて11月までに再検討する。 ・進路講演会等の行事において、職員と保護者の情報交換の機会を設けるなど工夫を凝らし、保護者の参加を促進する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会は保護者の参加者数は全会員の30%程度であった。保護者が参加したいと思う仕掛けが必要である。 ・次年度の総会開催日の検討については、学校行事の兼ね合いから12月に決定した。 ・文化祭では、保護者の協力で食品バザー等を充実させることができた。 ・育友会主催でスポーツ親睦会を実施し、保護者と職員の親睦を深めることができた。 ・体育大会やマラソン大会など、保護者協力が必要な学校行事については、メール配信を利用して参加の呼びかけを行った。また、育友会役員と連携して保護者へ連絡を行い、積極的な協力を促すことができた。
	特色ある学校づくり	SSHの推進と科学技術人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間で連携した授業を各学期2回以上実施し、全校体制で、地域課題解決に必要なとなる5つの力を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常授業に13の探究の場面を設定して5つの力の育成を目指す「天高版探究型授業」を全職員で実施する。 ・各単元で設定する探究場面を明記したシラバスを全教科科目で作成する。 ・全学年の探究場面配列表を作成し、毎週開催の授業担当者会等を活用し、各教科が連携して5つの力を育成する体制を構築する。 ・13の探究場面を活用した他教科との連携授業を全職員の50%以上が実施する。 ・職員研修を年間で5回以上実施し、全職員で探究型授業等のSSH事業について共通理解を図る。 ・1年生に対して「天草学連続講義」を実施し、5人以上の地域の行政・企業・研究者から地域の現状を学び、生徒が自分にできる貢 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当の全職員から「天高版探究型授業」の実践報告が得られた。 ・今年度も年度当初に作成した各教科のシラバスをもとに、3学年分の単元配列表を作成できた。 ・個人で行う探究型授業は十分に促進できた。今年度は合計で20例の実践事例が得られた。また、13例の挙床間連携に関する実践事例も得られた。 ・職員研修については、今年度も研修日課を活用し、計6回実施した。研修ではグループディスカッションを取り入れるなど、多様な意見の中で新たな気づきが得られるように工夫することができた。 ・「天草学連続講義」では7人の地域人材による講義を受け、地域貢献を目指した研究テーマを多数設定することができた。 ・「SSH熊本大学研修」では、各学部で講義を受講できた。研究分野ごとの手法について学ぶことで研究活動の充実につながることができた。 ・関西研修を8月に実施し、関西大学、大和ハウス、ダイキン

			<p>・海外を含む外部機関との連携による研究活動を4つ以上構築する。</p>	<p>献を考える場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象の「SSH熊本大学研修」を実施し8学部以上の研究者からの講義を受け、専門的な研究手法を学ぶ場を設定する。 ・2年生ASクラスにおいて国内研修を実施し、3種の研究機関（大学、研究所、企業）での体験の機会を設ける。 ・1、2学年からの選抜生徒を対象とした台湾及びシンガポールでの研修を実施し、海外の大学や高校との共同研究を構築する。 ・全学年対象に7月と3月に実施する「ARP探究成果発表会」に地域の方々を招待し、全生徒が地域貢献について議論する場を提供する。 ・天草市と共催で「環境シンポジウム」を実施し、県内他校も交えて研究成果を根拠とした地球温暖化対策に関する地域貢献実行の場を設定する。 ・天草市や天草漁協と連携し、研究成果を活かしてブルーカーボンニュートラルの一助となる活動を実施する。 ・県内他校との共同研究を実施し、研究手法や成果の普及を図る。 <p>※ASクラス：自然科学の課題研究や関連する研修を実施する天草サイエンスクラスの略語（2、3年理系に設置）。</p> <p>※ARP：天高版科学技術人材に必要な5つの力（問いを立てる力、情報を収集する力、情報を分析する力、対話する力、創造する力）を育成するために、課題研究を含む全ての教科・科目及びあらゆる教育活動に探究の場面を設定する天草探究プロセスの略語。</p>	<p>等を訪問した。最先端の研究施設を見学し、企業で働く研究者等による講話を受け、校内では体験できない機会を設けることができた。交通費の高騰を受け、次年度の計画については検討中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾研修を12月に実施し、選抜生徒4名が静宜大学の講師陣から直接指導を受けることができた。シンガポール研修では、南洋理工大学の体験実験多や英語による発表指導など、国内では得ることのできない貴重な経験ができた。 ・7月に実施した「ARP探究成果発表会」には行政職員、保護者、卒業生等の地域住民の方々に参加していただき、研究について意見交換を行うことができた。第2回は3月実施予定で、会場として銀天街のアーケードを使用できるように準備中である。 ・「環境シンポジウム」を8月に実施し、アマモについて研究成果を発表するとともに、天草市長や地域の方を交えて、パネルディスカッションを行った。地域の方々が本校の探究学習の内容の理解を深められ、今後の地域連携のきっかけとなった。 ・研究活動の外部機関との連携については、科学部を主体として大学を中心に連携構築を進めることができた。特にアマモ班は天草ブルーカーボンニュートラル協議会に参加し、漁業者と連携して天草近海の海底泥の分析等を行った。他にも今年度取り組んだ内容として、科学部化石班による御所浦白亜紀資料館学芸員との連携、ホタル班による崇城大学とDNA調査の連携等がある。今後、ホタル班は鹿本高校との共同研究、アマモ班は天草市や地域企業の支援によるアマモ場の造成を計画している。
--	--	--	--	--	---

	安全管理の取組	不祥事防止	・不祥事防止に向けて全職員で主体的に取り組む雰囲気醸成	・不祥事防止やハラスメントに係る職員研修を年間2回以上実施する。 ・職員連絡classroomを活用して、不祥事防止及びリスク管理についての資料の提供を行う。	B	・不祥事防止全般に関する職員研修を計2回、ハラスメントに関する職員研修を1回実施した。また、啓発資料を随時提供することで、教職員としての社会的責任、倫理観、コンプライアンス等について周知徹底し、誰にでも起こりうる事案であるとの自覚を持つよう指導することができたが、すべての職員の規範意識の向上に寄与できなかった。
	業務改善及び働き方改革	業務の精選と効率化	・超過勤務時間の短縮と年休等の取得率向上	・業務の削減、負担の平準化、計画的な業務遂行について学期毎に点検を行い、校務の効率化をはかる。 ・部活動において、毎月の練習計画の点検を行い、県の指針の徹底を図る。部活動指導員が配置されている顧問の部活動従事時間を削減する。 ・年休取得や定時退勤に関する個別の目標を立てさせ、職員の意識付けを行い、計画的な取得を促す。さらに、定期考査初日の定時退勤日を設定する。	B	・1学期終了時にも1学期反省を実施し、各教師の業務に対する意見を集約、検討することで業務の効率化をさらに図った。 ・職員からの意見で、成績処理に関する時間確保のため、短縮日課を導入し、期間も延長した。 ・校務のDX化については、NASの導入及び自動採点システムの推進により、業務の改善を進めることができた。 ・部活動指導員を3人配置し、該当の部活動顧問の従事時間を部活動総時間の1～3割程度に抑えることができた。 ・本校職員の年休取得については、年平均10日以上での取得があった。定時退勤日の設定についても、定期考査の初日を定時退勤日として設定することができた。
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	・計画立案と振り返りによる自己管理意識の醸成	・フォーサイト手帳を利用して短期・長期の学習計画を立てさせることで、課題や提出物等の管理を促す。 ・スタディプラスを活用して、日々の学習時間を記録させ、生徒本人の振り返りや職員との面談に活用する。 ・年間2回の宅習時間調査を実施し、比較分析を行い、生徒本人や職員にフィードバックする。	A	・初期指導及び継続的な手帳の利用を促す働きかけを行い、先を見通して計画的にスケジュール管理ができるようにした。 ・学習支援ツールを用いて、計画通り家庭学習時間調査を2回実施した。面談等での活用を目的に、結果をクラスルーム等で共有した。 ・各学年で学習支援ツールの使用状況調査等を行うことにより、計画的な学習や提出物の自己管理を促し、主体的に学習に向かう態度を育成することができた。
		3年間を見通した指導計画	・シラバスによる見通しを立てた指導	・年度当初に各教科でシラバスを作成して、1年または3年間の授業計画を確認する。 ・各教科が作成したシラバスを元に、探究場面配列表を作成し、先の見通しに加え、教科横断的な指導の充実を図る。	B	・年度当初に各教科・科目でシラバスを作成、配付し、1年間の計画と評価の方法、探究場面について周知した。教科会等で実施状況の点検を行うことでPDCAサイクルによる授業改善を行うことができた。 ・育成する資質・能力を基盤とした単元配列表を作成した。職員で共有し、授業改善に活用することができた。

			<ul style="list-style-type: none"> ・学年会等による職員の情報の共有及び連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会等を活用し、生徒についての情報交換を活発に行い、他の授業での様子も把握できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、教科会、運営委員会等で生徒の状況把握に努めることで個別最適な学びの充実につなげることができた。生徒支援委員会を年間3回実施し、教育相談、特別支援教育等の連携を深めることで、個別の学びの保障について検討することができた。
		習熟度別学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学習到達度に応じた指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語で、学習到達度に応じた展開授業を行い、定期的に到達度を確認し、適宜クラス替えを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語とも、限られた条件の中で、精選して習熟度別授業を実施した。定期的にクラス替えを行うなど工夫をすることで、習熟度に応じた授業を展開することができた。
			<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図り、年度末実施の課題研究（ＡＳ・ＡＴ）での総括的評価において全生徒平均値を４段階評価中２・９以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ＡＳ評価基準表（ルーブリック）による評価を年２回（仮評価と本評価）実施し、指導の検証及び改善を行う。 ・研究活動中に指導担当者による「問いかけ」と「観察」を実施し、生徒の主体的な研究活動を促進させる。 ・１年生に対して研究活動のテクニックを指導する「探究スキルアップ講座」を実施し、生徒の探究力向上を図る。 ・ＡＳ及びＡＴは年度中盤の中間発表会で相互評価を実施し、自身の研究の改善点に気づかせ研究の深化を図る。 ・５つの力の伸長を評価する「評価テスト」を作成し、さらに一歩進んだ客観的な評価方法を検討する。 ※ＡＳ：自然科学の手法で地域課題解決を目指す課題研究を実施する授業である「天草サイエンス」の略語（１年生全員および２、３年理系ＡＳが履修）。 ※ＡＴ：SDGsの視点から地域課題解決を目指す課題研究を実施する「天草探究」の略語（２、３年文系および理系（ＡＳ以外）が履修）。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての探究科目（ＡＳⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ＡＴⅠⅡ）で評価を２回（仮・本評価）実施することができた。一部の評価において年度当初の予定から変更した点は今後の課題として残った。 ・ＡＳⅠ・Ⅱ、ＡＴⅠでは中間評価の場として中間発表会を１０月に実施し、生徒間や教員等との質疑応答の中で、自身の研究の課題を見出す契機となった。 ・５つの力のうち、３つの力（問いを立てる力、情報を収集する力、情報を処理する力）の評価テストを開発・実施した。自由記述式の問題を多く採用したことで、採点方法等に課題が残った。テキストマイニングの活用による改善を検討中である。 ・課題研究（探究活動）の実施による生徒の能力伸長を測る評価を、年間を通じて実施できた。本評価６項目（全１３項目）の平均値は3.04となり、目標を達成することができた。
教員の指導力向上	学習指導法の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上 ・作問力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャー派遣事業を活用して各教科研究授業を行う。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業は行われたものの、スーパーティーチャーを招へいすることは一部の教科でしかできなかった。職員の意識向上のために更なる手立てを考えていきたい。

			<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題の分析力と模試結果分析力の向上 ・授業評価による振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での作問研修及び教科指導力向上研修への参加や先進校視察等を実施する。 ・九州大学、熊本大学、熊本県立大学等の入試問題分析を各教科会で実施し、生徒の学力の状況と改善策の検討を行う。 ・１・２学期末に生徒による授業評価を実施し、授業改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進連協主催の作問研修会に本年度は参加者なし。先進校視察は実施できていない。 ・各大学の入試問題分析、模擬試験分析を各教科会で実施し、受検指導等の改善につなげることができた。 ・先進校視察は実施できなかったが、鹿本高校や八代東高校、神奈川県立横須賀高校から学校訪問を受け、意見交換を行うことで、他校の状況を知ることができた。 ・１・２学期末に生徒による授業評価を実施し、教科担者に結果を通知することで授業改善に役立てるように工夫できた。
キャリア教育	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	生涯学習の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「雛鵬プラン」の進路指導スケジュールに基づく系統的指導と個別指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「雛鵬プラン」に沿って、自らの進路目標や学習の状況に応じて主体的、計画的に学習する基礎力を養成する。 ・「手帳（フォーサイト）」を利用して、宅習・生活の計画と記録を記入させ、振り返ることで自己管理を促す。 ・「キャリアパスポート」を活用して各学期の目標設定と振り返りを実施する。 ・「スタディサプリ」や「スタディプラス」、課外授業、添削等を利用し、生徒が学力や目標に応じた学びを主体的に行うための体制を整備する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雛鵬プラン」の具体化のため、定期的に進路チャートを教室掲示するなど年間を通して計画的な活動につなげた。 ・初期指導及び継続的な手帳の利用を促す働きかけを行い、先を見通して計画的にスケジュール管理ができるようにした。 ・キャリアパスポートを活用して学期ごとの振り返りはできた。年間を通じての活用指導はまだ十分ではない。 ・学習支援ツールを利用し、生徒自身が学力や志望に応じた学習の振り返りや授業の学び直し等を行えるよう、利用に関するガイダンスを行った。その後の運用についても継続的に行った。
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供 ・進路講演会、大学出張講義などのガイダンス機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の手引き「求學志成」や「雛鵬プランカレンダー」を作成し、具体的な行事や取組を提示し、見通しをもって進路指導を行う。 ・進路情報誌（月刊誌・増刊号）を各クラスに配付し、大学選びや学習プラン作成などの受験情報に対する意識を高める。 ・各学年で時期や生徒の発達段階とニーズにあった内容の講演会を実施する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の手引き「求學志成」、「雛鵬プランカレンダー」を年度当初に全生徒に配付し、進路学習等で活用させながら、進路意識の向上につなげた。 ・進路情報誌をクラスや生徒に配付し進路学習等で活用した。 ・各学年で進路講演会や難関大志望者集会を実施し、進路指導部から学年の現状や今後の指導についての情報提供を行い、生徒や保護者の進路指導につなげたが、すべての保護者に浸透したか検証が必要である。
		進路希望に応じた個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストでの全科目全国平均点以上の達成 ・模擬試験での3年生全科目平均偏 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストの分析をもとに、各教科での思考力を問う問題への対策を強化する。 ・模試分析を１・２年生は、７・１１・１月 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストの問題分析を各教科会で実施し、受検指導等の改善につなげることができた。 ・各教科で模試分析を行い、各学年で生徒の状況を共有し

(進 路 指 導)			差値５０以上、１・２年生国語・数学・英語平均偏差値５２以上（５０以上を６割）の達成	総合学力テスト、３年生は４・６・７・９月進研模試・ベネッセ駿台模試について各教科会を実施し、生徒の学力の状況と改善策の検討を行う。		、模試前後の弱点補強や学習指導法の工夫・改善等につなげることができた。 ・各学年成績目標はすべて達成できなかった。生徒の学力の正確な把握に努めたい。
	高大接続への対応	入試制度改革等への対応	・総合型、学校推薦型選抜入試での合格者の増加 ・国公立大学進学希望生徒数の１／３以上（難関大学５名以上）合格の達成 ・受験レポートや過去問等の情報をもとに、受験指導の対策を全職員が行える体制を整備する。	・総合型、学校推薦型選抜の検証を行い、本校生徒の活動や能力を活用した受験対策を行う。 ・進路検討会を年間に３年生５回、２年生２回、１年生１回以上行う。 ・九州大学、熊本大学、熊本県立大等の入試問題分析を各教科で実施し、受験指導に活用する。	A	・総合型選抜や学校推薦型選抜等の年内入試の定員増加に伴い、生徒の主体的な活動を評価する項目が増加した。 ・各学年で学力検討会及び進路検討会を行い、生徒の現状を学年と教科担当者で共有し、個別の面談等に利用した。３年間を見通した指導についての共通理解を図り、３年生は受験校の決定、１・２年生は進路目標決定や今後の学習指導の共有につなげることができた。 ・各大学の入試問題分析を各教科で行い、受験指導等の改善につなげることができた
生 徒 指 導	自律心の育成	生徒会活動の充実	・生徒自治を軸とした学校行事の活性化	・校則の見直しについて各クラスで話し合いの場を設ける。 ・生徒会執行部がアンケートを実施し、生徒、保護者の意見を取りまとめ、学校生活における規則の改善点について職員会議に提案する。 ・生徒会主催で毎月生徒朝礼を実施する。 ・一斉委員会で検討した内容を、生徒朝礼で取り上げ、全校生徒へ周知する。	B	・生徒会執行部を中心として、学校の様々なルールを見直し、職員会議へ改正案を提示することができた。 ・校則の見直しを進める過程で、担任等を交えた建設的な話し合いをする時間が設定できた。校則についての話し合いが、論点がずれて校則以外の話になるクラスもあるなど、職員のミスリードも見られた。 ・自分たちで決めたルールに対して、規範意識を持って生活できていない生徒が相変わらず散見される。また、校則は全てがブラックであり、ルールに従いそれを守ることがおかしいと考える生徒がアンケート調査で見受けられた。 ・各種委員会で話し合ったことを、生徒朝礼をとおして全校生徒に呼びかけることができた。
		部活動の充実	・部活動の効率化と部活動成績の向上	・各部活動で活動内容を精査し、効果的な練習に取り組む。 ・外部講師を招聘し最新のトレーニング方法を学んだり、食事について学んだりしながら専門的見地を競技力の向上に生かす。	A	・各部活動において、生徒と顧問が活動内容を精査しながら技術の向上に努め、計画的に部活動を行うことができた。 ・陸上部、水泳部、男子ソフトボール部、男女バスケットボール部で、成果が出ている。
		ボランティア精神の育成	・ボランティア年間参加者延べ３００人の達成	・外部から登録されたボランティアに限らず、ボランティア委員会で奉仕活動を企画し、積極的に呼びかける。	A	・年間３０件のボランティア活動に対して、延べ３６５名の生徒が参加した。 ・学習支援ボランティアを実施し、本渡南小学校（７０名）、本渡北小学校（４４名）、計１１４名の生徒が参加した。

					・雛鵬の夢実現セミナーにおいて、2年生2名が1年生に数学を指導する事を自主的に発案し、2学期から実施することができた。
	基本的な生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	・交通違反・事故0の達成	・学期毎に生徒指導部を中心に登校指導、街頭指導を行う。 ・毎月、原付免許取得者集会を行い、具体的な事故・違反事例を共有し、交通法規遵守の意識を向上させる。	B ・学期毎に生徒指導部を中心に登校指導を行うことができた。 ・毎月、原付免許取得者集会を実施し、交通安全教育を行った。また、生徒の事故が発生した場合は注意喚起を含めた緊急集会を実施した。 ・年間の事故件数は10件（自転車事故5件、原付事故5件）であった。昨年度17件（自転車事故9件、原付事故8件）より7件の減であった。 ・事故総数は減ったものの、依然として車との接触事故が発生するなど、非常に危うい状況に変わりはない。
		規範意識の醸成	・セルフチェックをととした規範意識の向上	・生徒朝礼をととして生徒会、生活委員会を中心とした規範意識向上の呼び掛けを行う。 ・生活委員会が中心となって定期的にセルフチェックを行い、その結果を共有することで規範意識の醸成に繋げる。	B ・生活委員会が中心となって、規範意識の向上を目標としたセルフチェックを実施した。今後も継続的に実施し生徒の意識を高めていく必要がある。 ・校則改定に際して、生徒会によるリーダーシップがやや足りなかった。
人権	命を大切に する心を育 む指導	校内の人権教育の推進	・生徒、職員の人権意識の高揚と人権感覚の醸成	・生徒の人権学習は、講演会を含めて1・2学年は年3回、3学年は年2回実施する。職員研修は、部落差別（同和問題）と「第三次とりまとめ」に示された理論と実践の2つの内容を必須とする。	A ・人権教育LHRについては、1学年では「様々な人権問題」、「いじめ問題」のテーマで計2回、2学年では「部落の歴史」、「ハンセン病問題」のテーマで計2回、3学年「進路保障」のテーマで実施することができた。 ・人権教育職員研修については、第1回「人権同和教育課ビデオ視聴（選択型）」、第2回「部落差別（同和問題）」（人権同和政策課）、「第三次とりまとめ」（人権同和教育課）、第2回（12月～1月）「熊本県人権子ども集会」オンラインによる視聴を実施し、職員の人権教育に関する資質・能力の向上を図ることができた。
		命を大切に する心の 育成	・相談体制の構築 ・性教育講演会の実施	・こころとからだの振り返りシートをもとに、SCや外部機関も含めた連携の強化を行う。 ・講演会内容や実施時期などを早期に決定し、生徒のニーズに合った講演会を実施する。	A ・天高メンタルヘルスアンケートを毎月実施し、生徒の心身の健康状態の把握に努め、SCや担任面談につなぐことができた。 ・性教育講演会では、県の事業を活用し、天草地域でも勤務経験のある産婦人科医から、DVも含めた幅広い性に関する内容について講演いただいた。

		道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動における道徳教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会等の外部講師による講演会において、在り方、生き方を考える機会を増やす。 ・安全教育LHRを実施するなど、情報モラル教育を推進し、SNS等への書き込みにおけるモラルの向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会、人権教育講演会、性教育講演会等の実施により、外部講師による在り方、生き方を考える機会を設けることができた。 ・安全教育LHRでは、SNS等の使用に関する注意喚起を行うとともにモラルの向上を図ったが、生徒間のSNSトラブルに関して無くなることはなかった。さらに、生徒の心に届く取組を構築する必要がある。
健康 安全 教育 の 推 進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・視力、むし歯ともに治療率70%達成 ・毎月健康情報の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告書の配付及び年2回の養護教諭による個別指導をおこなう。 ・毎月生徒保健委員会を中心として「保健だより」の発行を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断後及び長期休暇前に治療勧告書を配付した。個別指導（疾病者に対して）実施した。3月に個別指導を行い、治療率70%に達成に努める。 ・1学年保健委員会が作成した定期的に保健だよりを発行することができた。生徒主体まで達していないが、他校の保健委員会と交流することにより刺激を受けた。県下の保健委員の前で実践報告し、保健委員活動を充実させることができた。
		環境美化の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・前年より電気・水道の使用量を減らす ・花いっぱい運動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・水道の使用量をグラフ化し、毎月の生徒朝礼で結果を発信することで、意識の涵養に努める。 ・毎学期花の管理や季節の花を校舎内に植える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会主体でグラフを作成し、毎月の全校集会で周知するとともに掲示することで、節電・節水の意識を高めることができた。 ・1、2学期は校内の花弁の管理を行うことができた。また、年度末に春咲きの花の植栽をする予定である。
		整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除用具、教室環境の整備の徹底。 ・毎学期の安全点検の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に生徒生活委員会を主体とした環境点検を行い、環境美化のための整備を進める。 ・職員による安全点検を毎学期実施し、職員全体での共有及び、迅速な対応を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期始めに職員による安全点検を実施し、校舎内の危険箇所等の早期対応を行うことができた。 ・生活委員会を主体とした呼びかけを毎月一回の生徒朝礼で実施し、生徒自身の問題として呼びかけを行った。
い じ め	指導体制の組織的整備、未然防止及び早期発見のための取組みの強化	組織の実効的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・縦（管理職、他学年）と横（学年団）のつながりを密接にした組織づくり ・専門的な知識を有する臨床心理士を含む「いじめ対策拡大委員会」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有と、迅速な対応を心がけて行動する。 ・生徒指導部会やアンケートで得られた情報を共有し、該当生徒への事実確認や保護者との連携、対応方針の決定を組織的に行う。 ・専門的な知識を有する外部相談員に、様々な視点から助言をもらい、いじめ事案解決に役立てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、部会等で情報を共有し、いじめの早期発見と重大事案の未然防止ができた。 ・発生したいじめ事案については、共有した情報をもとに「いじめ対策拡大委員会」を中心として組織的に迅速かつ丁寧な対応ができ、関係生徒、保護者等のその後の良好な人間関係の構築を支援することができた。
		いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会から「心のきずなを深める月間」において、いじめ防止の意識を高める呼び掛けを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「心のきずなを深める月間」において、全校生徒で心のきずなをテーマに標語を考えたり、夏休みの作文コンクールに人権をテーマにした作文

の 防 止 等			<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにつながりそうな雰囲気を敏感に感じ取る感性の涵養 ・質の高い傍観者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会などをおしていじめを許さない雰囲気づくりを行い、いじめにつながるような他者の言動に気づく力をつけさせる。 ・ネットトラブルの現状を学び、SNSの適切な使用等を考えるLHRを1学期中に実施する。 ・SNS上のいじめ問題に対する生徒の感度を上げる。また、問題行動を発見した際、当事者ではない第3者としてどのように行動すべきかを考えさせる。 	B	<p>を応募したりして生徒の人権意識を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会等をおして、SOSを発信することの大切さやそれに敏感に気付くことができることの大切さについて伝え、いじめの防止を学校全体で行っていくという雰囲気づくりができた。 ・SNSに関するトラブルは昨年同様に発生したが、SNSが起因となる問題行動の発生数はなかった。
		いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ通報アプリ等の積極的周知 ・様々な形でSOSを出せる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1度は担任を中心とした二者面談やアンケートを行う。また、そこで得た情報は、学年会をはじめ保健部会、生徒指導部会、運営委員会で共有する。 ・学年集会や全校集会などをおして、困ったときには、様々な形でSOSを発信するよう呼びかけを行い、担任や部活顧問などに相談しやすい環境作りを行う。 ・いじめ通報アプリの活用を促しいじめの早期発見に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施で学校が把握をしていなかった生徒間のトラブルや悩みを早期に発見し、重大事態への発展を未然に防ぐことができた。 ・生徒間のトラブルを職員が発見した際、一部の職員で対応しようとする事案があった。いじめ問題に限らず様々な課題に対して個人で判断して行動するのではなく、組織として対応することの重要性について、いじめ防止対策委員会で共有することができた。 ・おかしいと感じたことをいじめ通報アプリを利用せずとも、アンケート等を通じて教師に報告し、いじめ行為に発展する前に関係生徒へスピード感を持って支援と指導をすることができた。
		いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応と早期の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対応マニュアル」に則り、組織的に迅速な情報収集を行い事実の確認を行う。 ・被害生徒、保護者の意向を尊重しながら解決策を探る。また、いじめ事案解決後の、被害生徒、加害生徒への継続的な支援を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止研修において、いじめの判断基準について外部指導員の助言を紹介しいじめの未然防止に役立てることができた。 ・被害生徒、保護者の意向を尊重しながら解決策を探ることができた。 ・加害生徒への継続的な指導と支援で被害者に対してのその後のいじめ行為を防ぐことができた。
地 域 連 携	総合型コミュニティスクール	地域連携の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の基本方針に係る教育課程の編成、教育活動の計画等に関する協議の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年間2回開催し、本校の教育課題について検討・協議する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会において、学校目標及びスクール・ポリシーの提示を行うとともに、本校の教育活動について指導・助言をいただくことができた。 ・学校評価アンケートを実施し、経年比較を行うことで、学校運営の評価、改善に活用することができた。

(コミュニティ・スクールなど)				員へ学校評価アンケートを実施する。		
	学校間の連携	・地域への情報発信	・天草地域高校生連携による高校魅力化の充実及び地域への情報発信 ・ドローンを活用した学校魅力化の推進 ・天草地域の小中高連携の充実	・地元商店街の振興イベントに参加し、天草知己の高校がそれぞれの特色を活かした取組を企画・運営することで、各校の強みを地域に対して情報発信する。 ・ドローンの学習活動への積極的活用について、天草地域の各高校や企業と連携して取り組み、高校間の連携を深めるとともに各校の魅力化を推進する。 ・生徒による天草地域小中学校学習支援ボランティアを実施し、小中高の連携を深めるとともに本校のPRに取り組む。	A	・10月実施の商店街イベントにおいて、「学びの祭典 in 天草」を地域の県立学校と合同で実施し、SSHの取組を中心に、本校の魅力をPRすることができた。中学生の参加が少なく、体験入学や学校説明会の要素を入れる等の検討が必要である。 ・地域のドローンスクールの協力により、近隣校の希望者を集めて講習会を実施した。ドローンの操縦体験だけでなく、今後のドローンの可能性について協議するなど、生徒同士の交流も深めることができた。学校の魅力化、特色化にはつながっているものの、研究活動への活用が課題である。 ・学習支援ボランティアを実施し、本渡南小学校(70名)、本渡北小学校(44名)、計114名の生徒が参加し、本校のPR活動にも繋がった。

4 学校関係者評価

- 各項目についての成果と課題の分析が的確にできている。学校評価アンケートの回答率の上昇も見ても、幅広い意見を集約できていると思う。
- 学校HPについて、これまでの活動に加えてさらに生徒会活動や図書委員の活動などの「見える化」についても工夫して、充実を図ってほしい。
- 生徒指導に関して、SNS指導も含めて、他校と連携しながら生徒指導の取組の強化などを活動してほしい。さらに、薬物乱用防止の取組についても、協力できるのであれば協力していきたい。
- 図書館の貸出冊数の低下について、IT社会によって自分に興味のある情報が優先的に得られる時代だからこそ、読書は他人の考えを知ることができる貴重なツールである。大人のえほんの導入など、生徒の読書環境の充実に努めてほしい。
- 地域の小学校に学習支援ボランティアや、SSHポスター掲示などの活動を行っているが、中学校との連携にも力を入れてほしい。特に、本渡中学校との連携については授業、部活動、生徒会との連携も行ってもらいたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、8つの大項目に対して35の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が15(42.9%)、B評価が20(57.1%)、C・D評価は0であった。昨年度と比較すると、A評価14→15、B評価が21→20とほぼ現状維持であった。

(2) 本年度の重点目標について

○学習指導(ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの推進)

学校評価アンケートの職員アンケートでは【6 私はシラバスを利用した計画的な学習を進めている】の項目において、前年度と比較して95.2%から85.3%と10%近

く下落した。この結果は保護者アンケート【10 学校の授業は工夫されていて、学習意欲がわく内容であると子どもから聞いている。】の項目で78.8%から75.6%に下がっている事と相関がある。特に1年生の保護者の評価が69.1%と低く、初期指導の重要性を鑑みても反省すべき点であり、進学指導の面からレベルの高い授業を行う必要性はあるものの、わかりやすい授業へさらに内容改善の意識を浸透させる必要がある。

○生徒指導・特別活動（自主的活動を奨励し、人格育成を基盤に据えた個性豊かな人間性育成の推進）

生徒指導においては、特別な指導を行った件数が2件と前年度の0件から増加した。さらに、SNSによるトラブルや、友人関係のトラブルなど対人関係のトラブルも増加し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の回数を増やし、よりよい対人関係を築く取組を増やす必要性を感じた。特別活動については、学習支援ボランティア活動など積極的に参加する生徒が増えた。

○進路指導（「雛鵬プラン」を基盤に据えた、人生設計教育（キャリア教育）の推進）

学校評価アンケートの生徒評価【5 学校は進路について丁寧に指導している】の項目において、2学年、3学年は進路指導について肯定的な評価をする生徒が90%以上ある反面、年々その数値は下落傾向である。これは、多様な進路希望を持つ生徒や、大学進学についても多様な方法が存在し、個別指導の重要性が増している事の裏返しであると考えている。キャリア教育については、本校の進路学習のガイドラインである「雛鵬プラン」を用いて、個々の進路目標に応じた計画的で細やかな指導に努めた。2学年ではインターンシップを実施し、希望生徒43名が天草地域の各事業所等で職業体験を行い、職業観・勤労観を育むことができた。各学年の保護者を対象とした進路講演会や「進路指導の手引き」を活用した面談の実施など、進路指導の充実を図ることができた。

○SSH（探究的な問いの視点と、論理的考察能力・態度を持った生徒の育成）

SSH学校設定科目の「天草サイエンス」や「天草探究」において、地域課題を解決する探究活動を実施し、問いを立てる力、情報を収集する力、情報を分析する力、対話する力、創造する力の育成を図った。全ての教科・科目における天高版探究型授業の充実と教科横断的な視点で探究的な学びの充実に取り組んだ。この取組は、令和6年度SSH中間評価において、上から2番目の評価をいただいた。

○健康・安全教育（生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成）

体育大会やマラソン大会等の学校行事の実施及び運動部活動の充実により、生徒の体力の向上に努めた。保健部主催で、生徒対象のメンタルヘルスアンケートを定期的実施し、生徒理解や早期対応に活かすことができた。必要に応じてスクールカウンセラーの面談につなぎ、生徒の不安感を軽減できた。いじめアンケートの実施により、学校が把握をしていなかった生徒間のトラブルや悩みを早期に発見できた。また、いじめ防止対策拡大委員会を年間3回実施することで、重大事態への発展を未然に防ぐことができた。生徒アンケート【16 学校は健康で安全な学校生活に配慮している】の項目では95.0%、「私はいつも健康・安全面に心がけており自己管理ができています」の項目では91.6%と肯定的な評価の割合が高かった。

○環境教育（「身近な環境」を日常的に捉えさせ、環境保全に対する高い意識の醸成と行動力の育成）

生活委員会を中心に、生徒主体で水道使用量及び電気使用量の削減に取り組む活動を行い、月1回の生徒朝礼で前月の報告を行っていた。残念ながら、使用量の削減はできていないものの、継続的に活動することで、生徒の意識の向上を図ってきたい。

○開かれた学校（地域との積極的連携推進）

10月下旬には、One Teamプロジェクト事業及び熊本教育デザインシンポジウム2024-AMAKUSA DAY-において、地域の方々と連携しながら天草市の魅力について考えたほか、SSHの取組による環境シンポジウムやサイエンスアカデミーなど、積極的に地域の方々と交流を図った。ボランティア活動においても述べ365名の生徒が参加し、積極的に校外で活動する生徒を応援する雰囲気醸成に努めた。

○生徒一人ひとりを中心に据えた学校づくり

生徒会を中心に、校則の改定や登下校における自転車のヘルメット着用についての議論など、積極的に生徒が学校生活に関わる雰囲気作りに努めた。教師の関わり方に若干のミスはあったもののその都度改善を図りながら、今後も生徒の議論の手助けを行う等の取組を継続させていきたい。

○学校における働き方改革（業務削減の推進及びワークライフバランスの視点に立った年休の計画的取得）

自動採点システムの導入、各分掌の業務削減や効率化、自己申告によるノー残業デーに加えて、定期考査の初日を定時退勤日に設定するなど「働き方改革」をさらに推進したものの、超過勤務時間が昨年度よりも増加した。令和6年における本校職員の年間の年休取得も10日と昨年と比較して少なかった。業務の見直しをさらに進め、職員から意見を実行に移せる風通しの良い職場作りに努めたい。

6 次年度への課題・改善方策

（１）学校経営

【課題】

昨年度から、職員アンケートで5ポイント上昇した項目は4項目、5ポイント以上下落した項目は5項目であった。進路指導、朝の読書、職員の連帯感について向上し、家庭学習への指導、授業、掃除指導、地域理解の面で下降している。特に、【29 本校の教育は、地域・保護者によく理解され、支持されている。】の項目において11.9ポイントも下降した。同様に、保護者アンケート【22 私は、学校で行われた講演や講話の内容を知っている】の項目において、54.7%と昨年度よりもさらに低下した。保護者の半数近くが本校の教育活動についての理解が十分に得られておらず、教育活動に対する保護者の方々の反応の無さも、職員一人ひとりの業務の達成感が低下している要因の一つと思われる。広報活動を充実させ、地域の方々や保護者に本校の教育活動を理解していただき、職員の達成感を向上させる必要がある。保護者の方々にも本校の教育内容が十分に周知されるように、その方法について検討を重ねたい。

【10 学校の授業は工夫されていて学習意欲がわく内容であると子どもから聞いている】の項目では75.6%と、生徒アンケートと若干の相違はあるものの、授業に対する不満については変化がなく、さらに、職員一人一人がカリキュラム・マネジメントの視点を持って学習指導の充実に取り組む組織づくりを、職員研修等で共通理解を図りながら推進し、教師の授業改善をさらに進めていく必要があると思われる。

【改善方策】

昨年度と同様に、SSH授業担当者会及び雛鵬委員会による授業改革の取組を充実させ、全職員がカリキュラム・マネジメントを意識し学校経営に参画させ、さらに、習熟度別授業や教科間連携で学ぶことの楽しさを生徒に伝えることのできる教師の育成に努める。また、公開授業やSSH発表会等への保護者参加を促すとともに、保健だよりや学級通信等については保護者メール配信システム「すぐーる」を活用して周知を図り、本校の教育活動に対する理解を深める。

（２）学力向上

【課題】

生徒アンケート【13 先生は、適切な課題を与え、学習習慣が身に付くように指導をしている。】の項目では90.5%とさらに前年度より低下した。これは、1年生の生徒アンケートによる下降の影響が大きい（R5 95.4%→R6 85.6%）。模擬試験の成績度数分布を見ても、昨年度の1年生よりも標準偏差の値が拡大し、生徒の学力の幅がより大きくなっていることから、授業内容の理解が進まない生徒が増えてきていると思われる。さらに今年度は、教師アンケート【6 私は、シラバスを利用した計画的な学習を進めている。】の値も昨年度に比べて著しく低下していることも一因であると考え。教師が学校評価アンケートの内容を理解し、シラバスの改訂をすすめ、今年度以上に学習支援ツールを活用した個別最適な学びを充実させる必要がある。

【改善方策】

シラバスをとおして職員と生徒が共通理解のもとで授業を実施する。さらに習熟度別授業を効果的に実現するためにも、各種定期考査や学びの基礎診断テストを活用し、教科会や学年会を通して生徒の学力の習得具合を客観的数値で分析するとともに、授業においても観点別評価を行うことで学力向上につなげる。家庭学習時間については、目標時間の達成だけでなく学習の質的向上を目指し、学習支援ツールの活用を推進しながら主体的に学ぶ態度の育成と個別最適な学びの充実を図る。

（3）キャリア教育の充実

【課題】

今年度、進学実績に関しては順調な伸びを見せている。また、進路に関する生徒アンケート【10 学校は、進路状況に応じた授業展開を実施している】についても、経年比較において1学年→2学年、2学年→3学年と進級するにつれて肯定的な意見が増加し、生徒の満足度が大きくなっている。これは、昨年度の反省より探究型授業の推進、数学及び英語の習熟度別授業の工夫、学習支援ツールの更なる活用により課題解決に努めたこと。「雛鵬プラン」において、生徒の現状応じた指導計画になるよう改善を行い、進路選択及び進路決定のために高校3年間を見通したキャリア教育を更に充実させたことが大きい。今後も継続して行っていきたい。しかし、公務員希望者において1名進路が未決定である。基礎学力の不足によるものと思われ、個別指導の重要性を感じた。

【改善方策】

基礎学力の向上については、生徒の意識を改善したい。「受験に合格するための学力の育成」と思われがちな授業内容を、「上級学校に進学しても対応できる基礎学力の育成」、「社会に出て役立つ基礎学力の育成」と考えることができる生徒の育成を目指すため、進路講演会の内容の検討や社会人からの講話を通してキャリア教育の充実に今後も務めていきたい。

（4）生徒指導、人権教育の推進及びいじめ防止の徹底、健康安全教育の推進

【課題】

生徒指導のボランティア精神の育成については、学習支援ボランティアなど延べ365名の参加があり、目標を達成することができたものの、生徒アンケート「私はボランティア活動によく参加している」の項目で肯定的評価の割合が36.8%と低く、特定の生徒が複数回参加している傾向があり、より多くの生徒に対して社会奉仕の精神を涵養していく必要がある。

人権教育の推進については人権教育講演会及び職員研修の実施、いじめ防止の徹底については心のアンケートの活用を行った。健康安全教育の推進については生徒の治療率の向上、交通安全教育については交通モラル・マナーの向上の項目について、担当者が担任を通じて呼びかけ、指導を行っているものの、すべての生徒が指導に応じているとはいえない。

【改善方策】

人権教育講演会及び職員研修について、今年度同様に外部人材を活用しながら、人権教育推進委員会が主体となって、本校の人権教育全体計画に則って実施し、生徒の人権尊重の精神の涵養と豊かな人間性の育成を図る。生徒支援委員会については、生徒理解、カウンセリング、特別支援を重点的に取り扱い、特別支援移行シートの作成を行いたい。いじめ情報集約担当者をいじめ防止対策の中心として位置付け、組織的にいじめのない安全、安心な学校づくりを目指すとともに、SNSの使い方等についても実態に応じた指導を行い、健全な心身の育成に努める。健康診断結果については、保護者総会での連絡や保健だよりの保護者メール配信等による保護者への周知と治療勧告書による指示の徹底を図り、今年度以上に治療率向上に努める。交通安全については、生徒朝礼等での呼びかけ、原付通学生集会の定期的な開催等により意識を更に高め、交通違反及び交通事故0を目指す。さらに、生徒が児童に応じるためには、粘り強く取組を維持、継続していくことが課題である。

（５）地域連携の推進

【課題】

学校運営協議会については、役割を十分に果たすための体制づくりを今年度も継続して行った。また、今年度取り組んだ地域との連携、高校間での連携、中高での連携に関する各事業をその有効性を検討し取組を発展させるためにも、それぞれの事業について検証する必要がある。さらに、学校の取組を地域の方々に周知する広報の方法についても、検討を重ねる必要がある。

【改善方策】

コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会において校長の運営方針の承認に加え、学校運営に関する意見について伺うなど、一定の権限と責任をもって学校の様々な課題解決に参画する組織になるよう、実施時期や委員の人選を含めて改善し、開かれた学校づくりにつなげる。

天草地域の高校魅力化の推進、環境シンポジウムや起業塾等の天草市との連携事業、学習ボランティア等の実施により、地域や近隣小中学校との連携をとおして、今年度以上に学校の魅力化推進と地域の発展に貢献する。目標達成のために、人材育成、地域活性化、ボランティア活動等の観点で地域との連携を深め、地域に信頼される学校として教育の充実を図る。